

平成 20 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

[分 類] 普及技術

[成果名] 移植水稻の生育期除草剤としてワイドアタック SC は有効である

[要 約] 移植水稻の生育期除草剤としてワイドアタック SC は、初期剤との体系による移植後 25～40 日までの散布で高い除草効果が得られる

[担 当] 農事試験場作物部、農業技術課専門技術員

[部 会] 作物部会

1 背景・ねらい

県内の水稻除草剤利用状況は、体系処理から 1 回処理への移行、兼業化等による適期を逸した処理、減農薬栽培の拡大・定着等により残草が問題となっているが、1 成分で各種雑草に有効なワイドアタック SC の効果を検討し、普及の資とする。

2 成果の内容・特徴

(1) 水稻生育期除草剤ワイドアタック SC は初期剤との体系処理による移植後 25～40 日までの処理(イネ 6 葉期以降、ノビエ 5 葉期まで、ただし、収穫前 30 日まで)で、ノビエ等のイネ科及び広葉の水田一年生雑草、多年生雑草に有効である。10a 当たり 100ml を散布液量 100 として落水、または、浅水状態にした水田に均一に茎葉散布する。

農薬登録内容

ワイドアタック SC

[一般名及び成分含量]

ペノキスラム水和剤

ペノキスラム 3.6%

[人畜毒性] 普通物

[魚毒性] A 類

[対象作物に対する適用登録]

(平成21年1月19日JPPネット確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	使用時期	10a 当り使用		適用 土壌	本剤の 使用回 数	ペノキスラ ムを含む農薬 の総使用回数
				使用量	希釈水 量			
移植 水稻	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ、クログワイ、セリ、ヒルムシロ	落水 散布	移植後 25～40 日 (イネ 6 葉期以 降、ノビエ 5 葉期 まで)、但し収穫 30 日まで	100ml	100l	砂壤 土～ 埴土	2回以内	2回以内

3 利用上の留意点

- (1) 散布液は使用当日に調製し、展着液を加用しない。
- (2) 薬剤を散布する前に落水か雑草の茎葉が田面水から露出する浅水状態にして、水の出入りを止め、まきむらのないよう均一に散布する。
- (3) 散布後少なくとも 2 日間（浅水処理は 3 日間）はそのままの状態を保ち、入水、かけ流しはしない。また散布後 7 日間は降雨の有無に関わらず落水、かけ流しはしない。
- (4) 処理後 1 日以内に降雨があると効果が不十分になるので、天候に留意して使用する。
- (5) 適期を過ぎた散布では効果が劣るのでホタルイは花茎抽出始まで、ウリカワ、ミズガヤツリは 4～6 葉期まで、ヒルムシロ、セリは生育期まで、クログワイは草丈 20～30cm まで、オモダカは草丈 30cm まで、一年生雑草のクサネムは草丈 20cm までに散布する。
- (6) オモダカ、クログワイ防除は、オモダカ、クログワイに有効な前処理剤との組み合わせで使用する。

4 対象範囲
県下全域

5 具体的データ

(1) 農事試験場作物部における成績(平成15年)

初期剤との体系処理(移植後25日~39日)により、一年生雑草、多年生雑草に効果があった。オモダカは比較区に比べ残草が多めとなったが、絶対量は少なく効果が認められる(表2)。水稲に対して葉先の黄化症状がごくわずか見られたが回復も早く、その後の生育、収量への影響はなかった(表3)。

表1 試験区の構成(平成15年、作物部)

No.	試験区名	処理方法	処理時期(日) ^{*1}	雑草の状況	1区面積及び反復
1	ソルネット1キロ粒剤+ワイドアタックSC	湛水土壤処理 落水茎葉処理	+1 +25	ノビエ後次始	1区6.3m ² 反復
2	ソルネット1キロ粒剤+ワイドアタックSC	湛水土壤処理 落水茎葉処理	+1 +39	ノビエ・コナギ3L、オモダカ4L	1区6.3m ² 反復
比3	ウルフエース1キロ粒剤	湛水土壤処理	+5		1区6.3m ² 反復
4	無除草	-	-	-	1区6.3m ² 反復

注)試験場所:農事試験場(須坂市)・標高390m・中粗粒グライ土、耕起・整地:4月25日、植代日:5月9日、移植日:5月13日、処理時水深:0cm、供試品種:あきたこまち、処理時の水稲葉齢は2区が6・3区が8、ウルフエース1キロ粒剤は平成18年12月19日に農業登録が失効となった

*1:処理時期(日)は移植日を基準とした日数

表2 除草効果(移植後64日)(平成15年、作物部)

No.	試験区名	処理時期(日) ^{*1}	使用量10a当たり	ノビエ	一年生ヤツリ	コナギ	他一年生広葉	マツパイ	ホタルイ	ミズガヤツリ	クログワイ	オモダカ	セリ	合計
1	ソルネット+ワイドアタック	+1 +25	1kg 100ml	0	0	t	t	t	t	0	0	22	0	0.3
2	ソルネット+ワイドアタック	+1 +40	1kg 100ml	0	0	t	2	0	3	0	0	10	0	0.5
比3	ウルフエース1キロ粒剤	+5	1kg	0	0	t	3	0	t	0	0	4	0	0.3
4	無除草	-	-	4	5	67	10	29	10	0	0	2	24	151

注)対無除草区対比%、無除草区は風乾重(g/m²)、t:0.5%未満

*1:処理時期(日)は移植日を基準とした日数

表3 水稲への影響(平成15年、作物部)

No.	試験区名	薬害			7月8日生育		穂数 本/m ²	出穂期 月・日	成熟期 月・日	収量		
		薬害症状	程度	回復状況	草丈 cm	茎数 本/m ²				精籾重 kg/10a	完全除草区比 (%)	減収の要因
1	ソルネット+ワイドアタック	葉先黄化	極微	早	59	551	390	7.28	9.2	578	97	
2	ソルネット+ワイドアタック	葉先黄化	極微	早	58	590	447	7.28	9.1	577	97	
比3	ウルフエース1キロ粒剤	-	-	-	58	538	408	7.28	9.2	578	97	
4	無除草	-	-	-	55	444	347	7.27	8.3	409	69	

(2) 農薬試験展示ほにおける成績(長野農業改良普及センター、平成20年)

クリンチャーバスMEとの比較で体系処理(移植後37日)により、比較区に比べノビエ、ホタルイの残草は少なかった。オモダカは残草となったもののごくわずかであり、実用上の問題はなかった(表5)。薬害はなく、生育への影響はなかった(表6)。

表4 試験区の構成(平成20年、長野農業改良普及センター)

No.	試験区名	処理方法	処理時期(日) ^{*1}	雑草の状況	1区面積及び反復
試1	スマートフロアブル+ワイドアタックSC	湛水土壌処理+落水処理	+12 +37	発生始 ノビエ5L・ホタルイ少・オモダカ少	30a、反復なし
比1-1	スマートフロアブル	湛水土壌処理	+12	発生始	10m ² 、反復なし
比2	スマートフロアブル+クリンチャーバスME液剤	湛水土壌処理+落水処理	+12 +38	発生始 ノビエ5L・ホタルイ少・オモダカ少	30a、反復なし
比2-1	スマートフロアブル	湛水土壌処理	+12	発生始	10m ² 、反復なし

注1)試験場所:信濃町・標高680m・黒ボク土・埴壤土、耕起・整地:5月17日、入水日:5月21日、植代日:5月24日、移植日:5月26日、日減水深:2cm/日、処理時水深:1cm、供試品種:あきたこまち、生育期処理剤処理時の水稲の葉数は6

注2)試1と比1-1、比2と比2-1がそれぞれ同一ほ場

*1:処理時期(日)は移植日を基準とした日数

表5 除草効果(移植後63日)(平成20年、長野農業改良普及センター)

No.	試験区名	使用量10a当たり	処理時期(日) ^{*1}	ノビエ	ホタルイ	オモダカ	合計
試1	スマート+ワイドアタック	500ml 100ml	+12 +40	0	t	11	2
比1-1	スマート	500ml	+12	1.0	2.3	0.9	4.1
比2	スマート+クリンチャーバス	500ml 1000ml	+12 +40	0	6	0	4
比2-1	スマート	500ml	+12	1.6	3.4	0.2	5.2

注)対スマートフロアブル処理区対比%、スマートフロアブル区は風乾重(g/m²)、t:0.5%未満

*1:処理時期(日)は移植日を基準とした日数

表6 水稲への影響(平成20年、長野農業改良普及センター)

No.	試験区名	薬害			7月13日生育		出穂期 月・日	成熟期生育		
		薬害 症状	程度	回復 状況	草丈 cm	茎数 本/m ²		稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²
試1	スマート+ワイドアタック	無	-	-	55	442	8.7	84	17.6	391
比1-1	スマート	無	-	-	53	385	8.6	76	17.0	351
比2	スマート+クリンチャーバス	無	-	-	55	422	8.5	77	17.5	372
比2-1	スマート	無	-	-	53	371	8.6	74	16.9	337

6 特記事項

[公開]

制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

水稲の雑草防除技術の確立、平成15年・民間受託、平成20年・長野県植物防疫協会農薬試験展示ほ